

令和5年度  
小中学校の児童生徒の静岡茶の愛飲の促進に関する県民会議録

日時 令和6年3月14日(木) 10:00~12:00

会場 県庁別館7階特別第3会議室

## 目次

### I 開会

#### 1 開会(司会・遠藤和久経済産業部理事)

ア 委員の出席状況の報告(13名中13名出席)

イ 新任委員9名の紹介

#### 2 あいさつ(静岡県経済産業部 櫻井正陽農林水産担当部長)

- ・県では児童生徒や保護者を対象としたお茶講座、栄養教諭の方々への研修会、県内の茶産地を紹介するデジタル教材の製作、Cha-1グランプリの開催等の取組を続けている
- ・令和5年4月に県とJAグループ、静岡第一テレビの3社でお茶振興に向けた連携協定を締結し、若手職員で構成するプロジェクトチームにおいて静岡茶のファンの拡大や情報発信にもと取り組んでいく
- ・児童生徒が静岡茶の歴史・文化に理解を深め、静岡茶を楽しみに触れながら、郷土への愛着を深め豊かな人間形成につながる取組を進めていく

#### 3 会長の選任とあいさつ

ア 都市教育長協議会会長の奥村篤委員を選任する

イ 奥村会長のあいさつ

- ・私が教育長を務める沼津市も県東部の主要茶産地の一つ、近年では皇室への献上茶として沼津茶は高い評価を得ている
- ・子どもたちが静岡茶の素晴らしさを知る、お茶が日常生活の中で身近な存在となるように教育に携わる者が静岡茶の魅力を理解し伝える必要がある、この振る舞いがお茶文化のおもてなしの心や静岡茶の愛飲の促進につながる

## II 議事

### 1 事務局の説明（資料1 小中学校における静岡茶の食育と愛飲の促進について）

#### (1) 報告

##### ア 静岡茶の愛飲の取組状況（佐田康稔お茶振興課長）

- ① 通年での静岡茶の愛飲の取組状況（2頁）
- ② お茶に関する食育の機会の確保（3頁）

##### イ 令和5年度の取組報告

###### (ア) 教育委員会健康体育課からの報告（夏目伸二健康体育課長）

- ① 児童生徒及び保護者向けの静岡茶講座の実施（4頁）
- ② 栄養教諭等食育担当者研修会の実施（5頁）
- ③ 静岡茶に関する食育の実践
  - i 静岡茶に関する食育の実践（6頁）
  - ii 静岡茶食育カリキュラム事例集（案）（7頁）
- ④ 小中学校への静岡茶食育デジタル教材の配布（8頁）
- ⑤ 茶器の提供（9頁）
- ⑥ 学校における静岡茶の食育の取組
  - i 学校における静岡茶の食育の取組（御前崎市立第一小学校）（10頁）
  - ii お茶を使用した給食の取組（11頁）

###### (イ) 教育委員会義務教育課からの報告（江本光徳義務教育課指導監）

- ① 山梨県とのお茶の学習交流（12頁）

###### (ウ) ふじのくに茶のミュージアムからの報告（野中康司副館長兼学芸課長）

- ① ミュージアムにおける活動
  - i 小中学校の施設見学の受入、教員のための博物館の日（13頁）
  - ii 学校への茶ミューキットの貸し出し、静岡茶を学ぶ子ども向け動画教材を作成（R5年度新規）（14頁）

###### (エ) お茶振興課からの報告（佐田康稔お茶振興課長）

- ① 小中学生向け茶競技会「Cha-1 グランプリ」の開催（15～16頁）
- ② ふじのくにジュニアお茶マイスターに関する知事認証制度の創設（17頁）
- ③ Cha-1 グランプリの本競技会の課題の整理（18頁）
- ④ その他の取組（19頁）
  - i お茶の機能性短編動画の制作（3本）
  - ii 静岡市立城北小児童を対象にした「お茶の学習会」

#### (2) 協議事項（佐田康稔お茶振興課長）

- ア 通年での静岡愛飲に向けた意見等に対する対応（20頁）

イ 静岡茶の食育機会の確保に向けた意見等に対する対応 (21 頁)

ウ 課題に対する今後の取組 (22 頁)

(ア) 通年での静岡茶の愛飲を促進

(イ) 教員や保護者の愛飲への理解促進

(ウ) 静岡茶の食育の支援体制づくり

## 2 委員の感想や意見

### (1) 松島 章恵委員 (日本茶インストラクター)

ア 要望—学校の茶器の充実をお願いしたい

イ 教諭向けの講座は続けてほしい、教える側の先生方のお茶に対する経験が少ないと、静岡茶の良さが子どもたちの心に響かない

ウ 子供たちが味覚について表現できないことが6~7年前から気になっている

エ お茶は嗜好品なので好き嫌いがあるが、共食することで他者との違いを知ることができる、共食は他者を認め多様性を認めたりする人間形成の機会である

オ ふじのくにジュニアお茶マイスターの制度はとてもいい制度、同様のことを行っている他組織と連携を取り、互いに引き立てながらやってほしい

カ ジュニアお茶マイスターは長期のビジョンをもって育てて

キ 奥村会長のコメント

- ・かつて私も人ごとのように受け止めていた時期があった、それを自分ごととしてとらえ関心を高めていくことが求められる、今の話を聞いて、学校・家庭・地域から受ける影響や体験がすごく大事になってくると感じた

### (2) 奥村会長 (都市教育長協議会会長 沼津市教育長)

ア 協議のテーマ「①通年での愛飲の取り組みの拡大・促進」「②静岡茶の食育機会の確保のための取り組み」についてご意見を頂きたい

イ この会議が、愛飲に取り組む学校の割合の目標 70%、食育の機会確保に取り組む学校の割合の目標 100%を、達成するきっかけになればいい

ウ 1人4分程度で、①、②のテーマについてご意見をいただきたい

### (3) 片岡佳美委員 (清水特別支援学校長)

ア 2012年からお茶プロジェクトに取り組んでいる

イ 茶器を用意してお茶を淹れるなど来年度の取り組みを考えている

ウ 学校の中にお茶畑を作ろうとしている

エ お茶を使った給食メニューを取り揃えている

オ 奥村会長のコメント

- ・子どもたちの感性を磨くために多面的に取り組む、地域とともにある学校づくり

をしていると思った

(4) 見崎由美子委員（静岡県学校給食栄養士会会長）

- ア 牧之原中学は茶園を持ち学校行事としてお茶を作りサービスエリアで販売するなど、お茶は子どもたちにとって身近なものになっている
- イ 赴任した当時学校行事として行われていた茶摘み、製茶、袋詰め、販売は、それが計画されているからやっているように見えたので、その活動を食育にしたいと思った
- ウ 自分たちの作ったお茶の味を知ることが大切と考え、お茶に合うお茶菓子を作り、そのお茶菓子と共にお茶を味わせた、今年度初めて行ったが、子どもたちは生き生きとした表情でお茶を味わった
- エ 生徒たちはサービスエリアで声を上げてお茶を販売した、修学旅行先でもお茶の配布活動を行った、自分たちのお茶の良さ、味を知っているから生徒たちは生き生きと取り組んだ
- オ 子どもたちに静岡茶の良さ、美味しさ、魅力を伝えていくためには、教員、先生方にお茶の魅力をより伝えていくことが必要ではないかと思う
- カ 愛飲条例をどれだけの方がご存じか、現場は人ごとなのではないか、興味のない方にお茶のさを知ってもらい子どもたちに伝えることが課題であると思う
- キ お茶のカフェインに対する正しい知識を伝えていくことが必要
- ク 奥村会長のコメント
  - ・多くの人と交わることで生きる力が育まれてゆく、山梨との交流の話が前段であったが、茶産地である牧之原とそうでない温度差のある地域との交流などが出来ればと思った

(5) 山下昌徳委員（静岡県経済農業協同組合連合会常務理事）

- ア 茶の生産の現状—一言で言うと茶業は疲弊し茶農家は生業として成り立たなくなっている
- イ お茶はペットボトルで飲んでいただいているが、我々が伝えたい急須で飲む風味のある家庭レベルのお茶はそうではない
- ウ JAグループでは県下共通のティーバックのお茶を勧める啓発活動を行う、子どもたちにも出演してもらいCM撮影も行った
- エ 児童のマイボトル持参の活動、本会議とも連携して行う
- オ 奥村会長のコメント
  - ・ペットボトルが常態化している子供たちにお茶を周知し関心を高めることが今回の課題でもある

(6) 長瀬隆委員（静岡県茶商工業協同組合理事長）

- ア この活動に頭が下がる、茶商は小売屋さんの減少で販売は厳しい
- イ 今、輸出のウエイトが大きく、サウジアラビア等の中近東は我々のターゲット
- ウ 国内では最近、急須が売れリーフのお茶が出るようになった
- エ 小中学生を消費者として育てなければならないこと（食育）を痛感している
- オ この活動をますます一生懸命やってもらいたい
- カ 奥村会長のコメント
  - ・ 事業者、学校、行政が一体となって行う活動、この会議にアイデアが出されるのを楽しみにしている

(7) 溝口玲子委員（静岡県 PTA 連絡協議会会長）

- ア 今の若い方は家に急須はなくゆとりもないので、ティーバックの生活になっている
- イ お茶が美味しく感じられるのは食べ物と関連があるから、そこを食育で行う
- ウ 茶がらの活用も視野に入れた教育になれば総合の学習になる
- エ 静岡の食材とお茶とを関連づけた活動を P T A の方でもできればと思う
- オ 奥村会長のコメント
  - ・ 茶がらをどうしていくか提案、お茶に合う食事の事など、色々と繋がっていくなどと思った

(8) 大石浩和委員（静岡県農業経営士協会茶部会）

- ア 牧之原ではティーヒーロー選手権（闘茶会）や手揉み体験を学校で行っている
- イ 牧之原の小中学校は茶園を持ち P T A が管理しているが茶農家が減って管理がどこまでできるか心配
- ウ 地域で生産するものが違う、茶葉の無償提供を受けるときは地域の生産者団体等に相談した方がいい
- エ お茶がない地域は団体を通じて協力要請する、皆で活動を盛り上げる
- オ 奥村会長のコメント
  - ・ 発言にパワーを感じた、J A ・ 学校 ・ 地元が一体的に取り組んでいくことが温度差の解消につながることを思った

(9) 杉山和陽委員（静岡県農業協同組合中央会常務理事）

- ア 食育の取り組みは地道に長く継続することが何よりも重要
- イ J A グループは「国消国産」（国内で消費するものは国でしっかり作ってこ）の活動を行っている、お茶も積極的に取り組みたい
- ウ 農業の現状—ロシアのウクライナ侵攻の影響を受け農産物の生産費が上がり経営が立ち行かないことが懸念されている、食料農業農村基本法も見直される

- エ 農産物価格は市場で決まる、適正価格を守るためにも食育がキーになる
- オ マイボトルの中に入れる飲料は家庭で異なる、その飲料がどこで買えるかを家庭に通知することもマイボトル持参運動の拡大の取り組みの一つ
- カ 食育機会の確保にあつては、ホームページだけの周知にとどまらずに、各種団体にも声かけをして情報共有することが必要
- キ 奥村会長のコメント
  - ・ 社会科の教科を教えているので共感するところが多かった、すべてが繋がっている、周知のことと問題視されていた

(10) 後藤加寿子委員（料理研究家 和食文化国民会議副会長）

- ア 学校で生徒たちがお茶を作ってそれを飲むことができるのが理想
- イ 味覚は重要、五味の教育を先生方にやっていただきたい
- ウ お出しの分かることは教養の一つ、子どもたちの味を取り戻すために家庭と学校の先生方にはいろいろなことを覚えていただき連携してやってほしい
- オ 奥村会長のコメント
  - ・ 食育は最重要視すべき、保護者・学校の先生方に関心を高めていただきたい

(11) 粉川克彦委員（常葉大学教育学部附属橘小学校校長）

- ア 静岡市から講師を招いて美味しいお茶の淹れ方教室を開いている、淹れ方を体験した子どもたちは家に帰り家族にお茶を淹れてあげ、家族団欒に繋がっている、それがとてもいい
- イ お茶に限らず学校はゲストティーチャー、専門家を招いて講座を行う、その際、大事なことは体験と相互構成、子どもにとっては学びのきっかけであり、インパクトがあり心に残ることが求められる
- ウ 専門家と子どもたちの学びを繋げることが教師の役割、子どもたちにとって、一番大事な学びはアウトプットすること
- エ これからの学校の教育活動は社会に開かれていること、そのために学校は学校の教育に保護者・地域を巻き込んでいく視点を持つことが大事、だからお茶の淹れ方教室も保護者に参観を呼びかける
- オ 奥村会長のコメント
  - ・ 話の胆一つなぐ、きっかけづくり、学び続ける、教師・保護者を巻き込んで行う

(12) 沖考子委員（掛川市立原田小学校校長）

- ア 今日、楽しみにここに来た、理由の一つは美味しいお茶がいただけること
- イ 昨年、池上教育長が外国人を巻き込んで活動を行う話をした、巻き込むことは大事と思い、私は保護者を巻き込むことを思い、保護者への愛飲の理解促進が

大事と思った

- ウ 子どもたちが飲むものは麦茶が多くスポーツドリンクもあり、多様化していて、必ずお茶というわけではない
- エ 掛川市内の学校は3年生が総合的な学習の時間でお茶の学習をする、茶摘み、手揉み保存会の人に来て手揉みをしたり美味しい淹れ方教室を行う
- オ 保護者を巻き込む観点から、授業参観で子どもたちが美味しいお茶を保護者に淹れて振る舞うことを担任が考え、子どもたちが実行した、子どもたちは勉強が楽しいという思いを持つことができ、それが愛飲に繋がっていると思う
- カ お茶が子どもたちを繋げた—3.11の時、仙台市にある同名の小学校に子どもたちのアイデアでお茶をお見舞いで届けた、先方の学校からはトウモロコシが送られてきて交流した
- キ 奥村会長のコメント
  - ・保護者を巻き込んで行う、繋がること、人格形成、育まれる志などを思った

(13) 久保田浩子委員（函南町教育長）

- ア お茶の違いを改めて実感し、子どもたちの交流の在り方について考えていく必要があることを学んだ
- イ 7年間の深く広い取り組み、この後どうしていくかという所へと入ってきている
- ウ 日常のお茶と改まった場で飲むお茶、この2つをどう整理して今後、授業を行っていけばよいか
- エ マイボトルの中身を保護者ではなくて子供たちが決められるようにするにはどういうアプローチが必要か
- オ 子どもが飲むための日常のお茶を子供たちにどう浸透させていくか
- カ 改まったお茶とともにお茶の文化をどうつなげるか、「つなげる」がキーワード
- キ 人生100年時代の中で子どもたちが豊かに暮らしていくためには子どもたちに何を伝えたらよいかを整理していくことが必要
- ク 質問—温かいお茶をマイボトルに入れて美味しく飲むための作り方を知りたい
- ケ 小学生の卒業記念品にマイボトルはどうか—など7年間の取り組みを整理しながらお知恵を頂きたい

(14) 意見終了

- ・次年度の会議は令和7年3月ごろに開催する

### Ⅲ 閉会

#### 1 あいさつ（池上重弘静岡県教育委員会教育長）

ア エキサイティングな議論ができた

イ 緑茶を日常飲んでいる静岡の子どもたちは、この環境がいかに恵まれているか、ありがたいかを感じてほしい

ウ 緑茶は静岡の宝・ソウルドリンク、子どもたちがその宝を引き継いで行く大事な議論がなされた

エ 緑茶は生き方に関連し、体験のツールとして豊かな学びをもたらすと深く感じた

オ 若い教員たちはほとんどお茶を飲まないのではないか、それを考えると、教育委員会として、教員たちのお茶に対する環境づくりが重要と感じた、何故なら、先生方がお茶に関心をもつことで子供たちがお茶に関心を持つと思われるから

カ 静岡のソウルドリンクのお茶が経済産業部と教育委員会をつないでくれる、来年度の皆様のインプットを楽しみにしている

#### 2 閉会